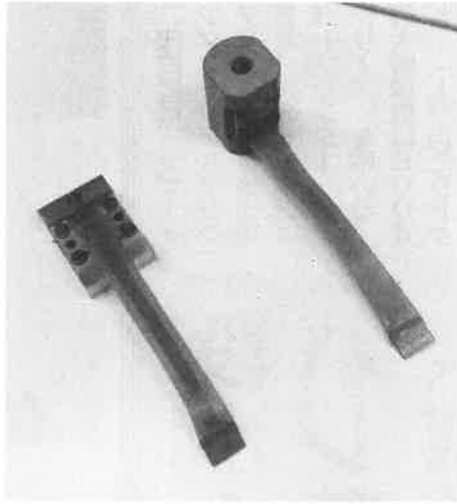


# 金型の歪み 高度検出

## プレス不良削減 KMCがシステム

【川崎】KMC（川崎市高津区、佐藤声喜社長）は、プレス加工の不具合原因を高度に検出できる監視システムを開発し、本格販売を始めた。1径ストレーン（1キログラムの物体が1ミリの伸び縮みする歪み量）の変位を計測できる小型・高精度センサーを採用。同センサーでプレス金型のわずかな歪みを計測し、プレス不良の削減に役立てる。消費税抜きの価格は95万3000円から。自動車や電子部品分野のプレス加工などをターゲットに初年度5000万円の売り上げを目指す。



開発したシステム「プレスモニタリング」は超高精度歪みセンサーに加え、有効データを高速度で抽出するサン

プリンクユニットやデータ収集・分析のためのソフトウェアで構成する。プレス不良は偏りたを収集・分析して不良原因の特定や予兆監視を行うことで不良を削減する。金型寿命の延長にも寄与する。

KMCではこれまでに、一部のプレス加工会社への先行販売を通じてKMCのプレス監視システムでは1径ストレーンの変位を検出できる超高精度歪みセンサーを採用した

じて同システムの有効性を検証してきた。佐藤社長は「プレス加工の不良率は一般的に7〜8%と言われているが、先行ユーザーからは『1%を目指す』と評価してもらった」と手応えを語る。

順送プレス、単発プレス、トランスファープレスなどさまざまなプレス方式に対応。オプションとして、システム導入などの技術支援を提供する。さらに今回の歪みセンサーと、振動や温度、圧力などさまざまなセンサーを組み合わせたハイブリッド型のセンシングシステムも提案し、ユーザーのプレス環境に応じた最適なシステム導入を支援する方針だ。